

The Digital SNOW FESTIVAL Press

デジタル雪まつり新聞

この新聞はさっぽろ雪まつりを
速報するために特別に
作られた編集チームが
MasahikoのDTPで制作し、
資料に特許取得しております。
無料でインターネット上にPDF形式で
全く同じものを掲載します。

発行
デジタル雪まつり新聞
編集局

札幌市立札幌星園高等学校
昼間部パソコン部内新聞局

道都大学短期大学部OA研究部
AGE Hokkaido
教育とコンピュータ利用研究会北海道支部

「寒くなんかないぞー！」

各種イベント大盛況

十日も同様に大通会場ではたくさんイベントが行われている。各会場では、「マルちゃんホットヌードル早食い競争」や「寒くなんかないぞ・よつ葉旗上げゲーム」「エキサイティングハンマーゲーム」等で、子供たちは大はしゃぎであった。今回の雪まつりも、観光客や国際雪像コンクールの参加者を楽しませ、良い思い出の一つが作られたようである。

会場にいる人々にインタビューをしたところ、今回が雪まつり初参加の人が多く、「とても楽しかった。また来年も来たい」と語っている人もいた。



優勝し、喜びを語る加藤さん。

大通西八丁目会場で、七日を除く毎日行われている「マルちゃんホットヌードル早食い競争」は、大盛況で多くの人が参加していた。参加者の西区の中原弘達さんは「初参加でしたがとても楽しかったです。ラーメンは思っていたより熱くて食べるのにずいぶん戸惑いました。もう少しで優勝できる場所だったのでも残念です」と語る。優勝した北区の加藤仁丸

「ひとまる」さん(写真)は「勝つ自信はありません。全員がライバルに感じましたが、特に隣のおじさんが強敵でした。歯



大人気だった雪まつりバッジ

雪まつりも最終日となり、十日現在で約百六十五万人の観客が訪れた。昨年の同時期に比べやや少な目であるが、各イベントに心から楽しんでる様子が見られた。観光客の中には、今日・明日で帰るといふ短期滞在型や札幌国際スキー場でスキーを楽しんでから帰るといふ人が数多くいるようだ。二月五日から七日間にわたり、様々な催しが行われた札幌雪まつりは、本日をもって終了する。



ぐきや舌がとても痛かったけどおもしろかったの
で来年も参加したいと
思っています」とうれし
そうに話していた。

大通西五丁目では連日
「寒くなんかないぞ・よつ

葉旗上げゲーム」が行われている。参加者が司会の声に合わせて、赤と白の旗を上げ下げするゲームである。道外からの参加者も多数おり、全員に記念品の幸福のキーホルダーが配られ、喜んでいく様子だった。大人も子供も一緒に遊べる楽しいゲームで寒さが吹き飛ばされ、雪まつりの良い思い出になったのではないだろうか。

「ここでも

「ポケモン」

大人気

大通会場には一般の団体が参加した百九十二基の雪像がある。それらは実に様々なものがあり、中でも『ポケットモンスター』は子供たちに大人気のせいか、十数基もの雪像が立てられていた。他にも雪の固まりに大きな穴を掘った「大穴碑」(なんと読むか?)などシニールなものや、漫画のキャラクターの雪像が建っていて見に来た人たちの目を引いていた。

記者席

来年は雪まつり五十周年であり、盛大に行われる。それに向けての考えを、来場者にインタビューしてみた。「会場内のごいになにがあるか地図では解らないので看板を増やしてほしい」「休憩所がどこも満員なのでもっと増やしてほしい」「観光客が雪像づくりを体験できるようにイベントがほしい」などという要望が多く出された。また、「暖かい甘酒やコーヒータンサーブなどが嬉しいから」との声もいくつか聞かれ、無料タイムサービスが大変好評であった。来年もまた継続してもらいたいものである。総じて、訪れた観光客からは今回の雪まつりに大きな不満はなく、満足の声が多く聞かれた。節目の年として大きなイベントがたくさん開催されるであろう来年の雪まつりにおいても、来場者の気持ちを大切に考えて、細部の気遣いなどに配慮すれば更によい評判が得られるであろう。「次回もすばらしい雪まつりにしてもらいたい」との声が、来年に向けての活力の原動力になっていくに違いない。